

令和4年度第1回大船渡市スポーツ推進審議会

日時 令和4年10月26日（水） 午後1時30分～午後3時15分
場所 シーパル大船渡 2階会議室
出席者 大船渡市スポーツ推進審議会委員 7名
東芳江委員、伊勢良行委員、栗村安弘委員、谷山誠志委員、新沼良治委員、
吉田勝委員、渡辺信子委員
大船渡市
協働まちづくり部長、生涯学習課長、生涯学習課長補佐、スポーツ推進係
産業政策室主幹

〔会議内容〕

1 開 会

2 会長及び副会長の選任について

会長に新沼良治委員、副会長に東芳江委員を選任した。

3 協 議

第1号 大船渡市スポーツ推進計画の評価・検証について
事務局より、資料1、資料2、資料3のとおり説明した。

〈意見・質疑応答〉

◇ 【資料1】大船渡市スポーツ推進計画の進捗状況の評価・検証について

- ・ 特になし

◇ 【資料2】スポーツ推進計画に掲げる主な事業及び実績（令和3年度）について

- ・ （新沼良治委員長）表1の令和3年度スポーツ教室の開催状況の参加者数は、延べ人数か。
 - （生涯学習課長）申込者数、実人数である。
- ・ （新沼良治委員長）表2スポーツ施設等の利用状況において、令和3年度の利用実績が増加した要因は何か。
 - （生涯学習課長）令和2年度は、コロナ禍で施設開放しない時期があったため、利用者数が減少した。
- ・ （新沼良治委員長）スポーツ推進委員は、どのような方々が、何人くらい委嘱されているのか。
 - （生涯学習課長）各地区公民館やスポーツ協会から推薦をいただいた方々を委嘱しており、市やスポーツ協会が実施する大会、イベント等において、運営補助や競技参加者への指導等を行っている。現在、20人の方を委嘱している。
- ・ （新沼良治委員長）ホストタウン交流事業の取組内容中、「アーバンスポーツ」とは何か。
 - （生涯学習課長）遊び感覚で行える新たなスポーツ、競技でいえばスケートボード、BMX、3x3バスケ等が挙げられる。

- ・ (新沼良治委員長) 米国とのオンライン陸上クリニックは、高校生だけが対象か。
- (生涯学習課長) 陸上部がある高校を対象に声掛けし、参加を募った。
- ・ (新沼良治委員長) スポーツ合宿の申込方法等は、市ホームページ等を見ればよいか。また、市内の小・中・高校は対象とならないか。
- (生涯学習課長) 内容はホームページに掲載しており、申込みは直接、生涯学習課へ行うこととしている。
 - 対象となるのは、市外の団体で、市内スポーツ施設を利用し、宿泊を伴うものである。
- ・ (新沼良治委員長) 市内の高校の先生方は、この制度を知っているか。
- (生涯学習課長) 周知を図っており分かっている。高校側には、練習試合等の際、他校に対し、制度周知をしていただくようお願いしている。
- (協働まちづくり部長) 毎年、県内高校に対し、夏休み等をターゲットにダイレクトメールによる周知を図っている。
- ・ (伊勢良行委員) 大船渡アスリート応援団事業において、公認アスリート6人となっているが、千葉ロッテマリーンズ所属の佐々木朗希選手を公認アスリートにしていない理由は何か。
- (生涯学習課長) 球団及び本人との権利関係等から難しい状況であるが、市出身アスリートとして応援しているところである。これは、関係者が了解済みである。
 - (協働まちづくり部長) 佐々木朗希選手の肖像権等の権利関係が絡むものについては、球団だけでは対応できない部分がある。球団とは緊密に連絡を取り合っているものの、複雑な権利関係を正しくクリアするには、球団側も簡単なことではない。当方と球団は非常に良好な関係にあるので、球団行事等で使用するものについては積極的に活用できることになっている。
 - 6月に開催した協賛試合では、本人が登場する場面があったが、本人の強い意向が働いたものと、球団では認識しているようである。市民がこういった形で応援していることについて、本人も非常に喜んでいただくとのことである。
- ・ (吉田勝委員) 市営球場について、照明設備がなく大きな大会の主管になれない。先日の日本スポーツマスターズ大会の時も、雨で進行が遅れ、第3試合が陸前高田市の球場に急遽変更となってしまった。こうした中であって、さんますり身汁の提供等おもてなしが大変好評であり、市の対応に感謝する。
- ・ (伊勢良行委員) 指導者育成に深く関わる市の施策は何か。
- (生涯学習課長) スポーツ協会の指定管理業務として、認定指導者助成事業やスポーツ少年団指導者研修会開催事業等を実施し、指導者の人材育成を図っている。
- ・ (伊勢良行委員) 今後、何につけても子どもたちに対する指導者が大切になってくる。市においても、指導者の育成に力を注いでいけば、良い方向に進むのではと考えている。
- ・ (新沼良治委員長) 認定指導者助成事業において、「スタートコーチ」とは何か。
- (スポーツ推進係) 近年、スポーツ少年団の指導者の資格制度が変わり、従来のスポーツ少年団指導者資格の呼び名がスタートコーチになった。基本的には、スポーツ少年団で指導にあたる保護者も含め、まずはスタートコーチの資格を取得し、指導にあたることになる。
- ・ (谷山誠志委員) 指導者の資格制度の変更に伴い、資格の更新頻度や指導者の配置要件等から指導者の数が減少している。資格制度が変わるたび、その対応に苦慮している。
- ・ (吉田勝委員) 野球競技のスポーツ少年団では、野球協会の大会のほか、各種大会に参加している。大会が多く、子どもたちの体が故障しないか危惧している。

→ (スポーツ推進係) 国全体で、子どもたちに対するオーバーワークや勝利至上主義等、行き過ぎた指導が問題となっており、そのような状況を踏まえ、指導者資格も更新制度になった。資格も、取得したら終わりではなく、常に学び続けるというのが国のスタンスである。市においても、そういった流れを踏まえた上で、行き過ぎた指導等を防ぐため、平日は2時間、土日は3時間、土日のうち一日は休みにするという方針を部活動にならって、スポーツ協会を通じてスポーツ少年団に周知を図っている。

◇ 【資料3】大船渡市スポーツ推進計画 施策・事業評価シート(令和2・3年度)

【資料3(1)について】

・ (吉田勝委員) どの競技においてもそうだと思うが、コロナ禍でもあり、大会に参加するチームが少ない。最大26チームの参加があった市民体育大会野球競技も、今年に参加チームは5チームであった。大船渡市はサラリーマン、職場勤めが多く、特に近年のコロナ禍で、職場への遠慮等から参加者は減っている。こういった点も勘案し、貢献度や進捗度を評価していただきたい。

→ (生涯学習課長) 基本施策「働き手世代のスポーツ機会の拡充」については、コロナ禍でなかなか活動につながらないということもあり、貢献度は△としている。

【資料3(2)について】

・ (新沼良治委員長) 進捗度評価は「C」であるが、多分にコロナ禍による影響を受けていると考えられるが、今後、その状況が落ち着いて、良い方向に進んでほしい。

【資料3(3)について】

・ (新沼良治委員長) 中学校部活動の段階的地域移行について、情報提供いただきたい。

→ (スポーツ推進係) 国全体として、スポーツ庁から、令和5年度から3年間かけての、週末における部活動の地域移行の方針が示されている。市としては、今年度(令和4年度)、岩手県の委託事業において、市内中学校の5つの部活動を選択して、地域移行のモデル事業にスポーツ協会とともに取り組む等、地域移行に向けた準備を進めている。

5つの部活動の週末の活動において、学校の顧問の先生ではなく、地域の指導者が指導にあたっている。

・ (新沼良治委員長) 順調に進んでいるか。また、今後、スポーツだけでなく文化部も地域移行していくことになるのか。

→ (スポーツ推進係) 現時点で各部、運営自体の問題は特になく、順調に活動できている。国としては、文化部も含めて学校部活動を地域に移行する方針である。市としては、教育委員会において、学校部活動のあり方検討委員会を組織し、その中で文化部を含めた地域移行の検討をしている。

4 その他

事務局から、令和4年度における以下の取組について報告。

・ 黄金の國いわて・大船渡ナイター

期日：令和4年6月7日(火) / 場所：ZOZOマリンスタジアム

・ デンソーテンレッドフェニックスバレーボール教室

期日：令和4年5月5日(木・祝) / 場所：大船渡市民体育館

5 閉会